

令和4年1月31日

国立大学法人一橋大学長
中野 聡 殿

国立大学法人一橋大学
学長選考会議議長 田中 一弘

国立大学法人一橋大学長の業務執行状況の確認について（通知）

このことについて、国立大学法人一橋大学学長選考会議による、対象期間（令和2年9月1日～令和3年3月31日）における結果概要を下記のとおり通知いたします。

記

(1) 就任当初から、コロナ禍対応、新学部・研究科の設置準備、高品質なビジネス教育・研究を行っているビジネススクールに与えられる AACSB International - The Association to Advance Collegiate Schools of Business(AACSB)国際認証の国立大学初となる取得など様々な重要課題に向き合う中、学長のリーダーシップの下、順調に運営を行ったものとして高く評価できる。

具体的には、以下の事項が挙げられる。

- ・学内において執行部や教職員と対話を重視した良好なチームワークの下、新学部・研究科の設置に向け、短い期間で学部・大学院の定員再配置を決定するなどの実績をあげたこと
- ・如水会、産業技術総合研究所等の学外機関や、四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）を構成する大学等と協働し、連携を強化していること
- ・科研費新規採択率が研究機関別で1位となることや英文業績（論文・著書等）数の増加などの研究力の強化を図ったこと
- ・新年俸制や業績加算給等を活用し、国際水準の優秀な研究者を集める方策を着実に前進させたこと

(2) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しつつ、教育・研究活動との両立をできる限り図り、コロナ禍における課題への対応を積極的に行ったことは評価できる。

具体的には、以下の事項が挙げられる。

- ・対面授業の機会を確保しつつ、オンライン授業を活用した実施体制を構築し授業の質を確保したこと
- ・経済的に困窮した学生及び来日学生への経済的支援を実施したこと

- ・感染防止を徹底するための体制を構築し、円滑に入学選抜を実施したこと
- ・ヨーロッパとアジアの社会科学系9大学で構成されるアライアンスである SIGMA (Societal Impact & Global Management Alliance) などが実施するオンライン講義への参画等、グローバルな大学連携に取り組んだこと
- ・オンラインによる国際会議、シンポジウム等の開催などにより、研究成果を国内外に積極的に発信したこと

(3) 新学部・研究科の設置をはじめとした指定国立大学法人構想の実現に向け、引き続き学内外とのコミュニケーションを密にして関係者一丸となって取り組むとともに、ダイバーシティ(多様性)向上のための中長期的な課題(ジェンダーギャップの解消、年齢構成の多様化、国際的多様性の向上、出身地域の多様化など)に対応する具体的方策を検討し着実に実行していくことを期待する。

以上